

基礎看護学教科書における人間の概念に関する検討

浏野由夏* 永嶋由理子* 加藤法子* 藤野靖博* 於久比呂美* 宮崎千尋*

Consideration of Human Concept in Basic Nursing Textbook

Yuka Fuchino Yuriko Nagashima Noriko Kato Yasuhiro Fujino
Hiromi Oku Chihiro Miyazaki

要 旨

看護の重要な概念である人間（対象）に関して、平成29年に公表された最新の「看護師国家試験出題基準」に示されている「看護の対象」の小項目について、看護基礎教育でどのように教育されているかという一般的傾向を捉えるために、基礎看護学の標準的な学生用教科書の記述内容の検討を行い、基礎看護学の学生用教科書の記述内容の実態と学生がその小項目を学習するうえでのポイントとなる重要用語を明らかにすることで、今後の基礎看護学教育への示唆を得ることを目的として検討を行った。

教科書の記述内容の整理をした結果、小項目すべての内容を記述した教科書はなく、小項目の記載内容も一様でなかったことから、ひとつの教科書を選択した場合には、それを基盤にしつつ、他の様々な教材を用いて教育内容を構築することが必要と考えられた。また、抽出された重要用語については、講義等での教授に加え、事前・事後課題の学習課題とすることで人間（対象）の概念の理解深化につながると考えられることから、この重要用語も教育内容に組み込んでいくことが必要と考えられた。

キーワード：看護のメタパラダイム、基礎看護学、人間、看護の対象、教科書

緒 言

看護におけるメタパラダイムは4つの概念すなわち「人間（対象）」「環境（社会）」「健康」「看護」から成り立って¹⁾おり、これら4つの概念は多くの看護理論家により定義づけられている。また、4つの概念は、一般的に看護という専門領域の中核を成すものと考えられている²⁾ことから、これらの概念についての理解を深めておくことが求められる。

看護学にとっての「人間」は、看護の受け手、看護の働きかけの対象についての概念³⁾であるが、看護者はあらゆる年代層、様々な健康レベルにある人間を対象として看護を行わなければならない。そのため、対象の理解は、長い間、看護教育においての中心課題³⁾といわれており、これは、看護が向き合う人間をどのように理解するかにより、看護者としてのコミュニケーションや看護の方法は異なってくる⁴⁾ためである。さらに、桑野²⁾も4つの概念のうち、最

も重要なのは人の概念であると述べている。そこで、今回は4つの概念のうち、人間（対象）に着目することとした。

ところで、学生は看護基礎教育を受けることにより看護師等の国家試験受験資格を取得するが、その国家試験の内容は厚生労働省が示す国家試験出題基準に示されている。具体的には、保健師助産師看護師国家試験の内容は、保健師、助産師及び看護師が保健医療の現場に第一歩を踏み出す際に、少なくとも具有すべき基本的な知識及び技能であり、保健師助産師看護師国家試験出題基準は、これらを具体的な項目によって示したものである⁵⁾。そして、出題基準は目標、大項目、中項目、小項目で構成されているが、今回、着目する人間（対象）については、看護師国家試験出題基準の基礎看護学の目標 I 「看護の基本となる概念について基本的な理解を問う。」における大項目「看護の基本となる概念」の中項目「看

*福岡県立大学看護学部
Faculty of Nursing, Fukuoka Prefectural University

連絡先：〒825-8585 福岡県田川市伊田4395番地
福岡県立大学看護学部
浏野由夏
E-mail fuchino@fukuoka-pu.ac.jp

護の対象」に位置づけられている。また、中項目「看護の対象」に関する内容をわかりやすく示したキーワードとしての小項目が7項目提示されている。

そこで今回、看護の重要な概念である人間(対象)に関して、平成29年に公表された最新の看護師国家試験出題基準に示されている看護の対象の小項目について、看護基礎教育でどのように教育されているのかという一般的傾向を捉えるためには、基礎看護学の標準的な学生用教科書の記述内容を検討することがひとつの目安となると考えた。そしてそのために、標準的な学生用教科書にどの小項目が記述されているかを整理し、その実態を明らかにするとともに、学生がその小項目を学習するうえでのポイントとなる重要用語を明らかにすることで、今後の基礎看護学教育への示唆を得ることができると考え、検討を行った。

方 法

1. 教科書の選定方法

学生用教科書を発行している国内出版社のうち、系統的・体系的に看護学の教科書を出版している、定期的な改訂が行われている、という2点の条件を満たす基礎看護学の教科書で、人間(対象)についての記述がある教科書を選定した。

2. 分析方法

1) 選定した教科書中の人間(対象)について記述されている章や項等を精読し、表1に示す看護師国家試験出題基準の看護の対象の小項目ごとに関連する記述内容を整理した。

- 2) 小項目ごとに整理した記述内容について、3冊以上の教科書に共通して記述されている用語を学生がその小項目を学習するうえでポイントとなる重要用語(以下、重要用語という。)として抽出した。なお、重要用語は本文中に【 】で示した。
- 3) 1) 2) の分析過程においては、結果の妥当性・信頼性を高めるために、基礎看護学の教育に携わっている研究者間で協議を重ね合意を得た。

表1 看護師国家試験出題基準 平成30年版の「看護の対象」における小項目

基礎看護学(抜粋)

目標Ⅰ. 看護の基本となる概念について基本的な理解を問う。		
大項目	中項目	小項目
1. 看護の基本となる概念	B. 看護の対象	a. 全体<whole>としての人間
		b. 成長・発達する存在
		c. ニーズをもつ存在
		d. 生活を営む存在
		e. 適応する存在
		f. 社会・文化的存在
		g. ライフサイクルと発達課題

結 果

1. 分析対象とした教科書(表2)

選定基準を満たした基礎看護学の教科書は6社から発行されている8冊であった。分析対象とした教科書の一覧を表2に示す。

表2 分析対象とした教科書

図書名	版	著者・编者	出版社	発行年
看護学概論 看護とは・看護学とは	第5版	松木光子 編	ヌーヴェルヒロカワ	2011
基礎看護[1] 看護概論	第15版	雑賀美智子 著者代表	医学書院	2016
基礎看護学[1] 看護学概論	第16版	茂野香おる 著者代表	医学書院	2016
看護学原論 看護の本質的理論と創造性を育むために	第2版	高橋照子 編	南江堂	2016
基礎看護学① 看護学概論	第6版	志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕 編	メディカ出版	2017
基礎看護学① 看護学概論	第4版	宮脇美保子 編	メヂカルフレンド社	2017
基礎看護Ⅰ	第6版	森美智子 編著(代表)	メヂカルフレンド社	2018
看護学概論 看護追究へのアプローチ	第4版	ライダー島崎玲子 編	医歯薬出版	2018

注) 発行年順に記載

2. 小項目ごとにみた記述内容 (表3)

1) 全体<whole>としての人間

全体<whole>としての人間についての記述があった教科書は7冊であった。そして、全体<whole>としての人間を捉えるにあたっては、【マーサ・E・ロジャーズ】の理論を記述している教科書が3冊あった。また、全体<whole>としての人間を説明するにあたり、【心身一元論】と【心身二元論】についての記述が3冊の教科書でみられた。

2) 成長・発達する存在

成長・発達する存在についてはすべての教科書に

おいてその記述がみられた。そして、【成長・発達の原則】を記述している教科書は5冊であった。次に、成長・発達に関する具体的記述内容をみると、身体的側面については、【スキヤモンの成長曲線】が6冊の教科書で示されていた。また、心理・社会的側面の発達に関しては、【ロバート・J・ハヴィガースト】の理論が6冊、【エリク・H・エリクソン】の理論が7冊の教科書で記述されていた。なお、エリク・H・エリクソンおよびロバート・J・ハヴィガーストの理論については、7) ライフサイクルと発達課題で詳述する。

表3 小項目ごとにみた記述内容

重要用語	教科書	A	B	C	D	E	F	G	H
全体<whole>としての人間		○		○	○	○	○	○	○
マーサ・E・ロジャーズ		○		○	○				
心身一元論・心身二元論				○			○	○	
成長・発達する存在		○	○	○	○	○	○	○	○
成長・発達の原則		○		○	○	○			○
スキヤモンの成長曲線			○	○	○	○		○	○
ロバート・J・ハヴィガースト		○	○	○		○		○	○
エリク・H・エリクソン		○	○	○	○	○		○	○
ニーズをもつ存在		○	○	○	○	○	○	○	○
アブラハム・H・マズロー		○	○	○	○	○	○	○	○
ヴァージニア・A・ヘンダーソン		○		○		○		○	
生活を営む存在		○	○	○	○	○	○	○	○
生活			○	○	○			○	○
生活者				○	○			○	
適応する存在		○	○		○	○	○	○	○
ホメオスタシス			○		○	○	○	○	○
対処機制 (コーピング)		○	○		○	○	○	○	○
問題中心 (焦点) 型コーピング			○			○	○	○	○
情動中心 (焦点) 型コーピング									
防御機制					○	○	○	○	○
社会・文化的存在									
ライフサイクルと発達課題		○	○	○	○	○		○	○
ロバート・J・ハヴィガースト		○	○	○		○		○	○
エリク・H・エリクソン		○	○	○	○	○		○	○
アイデンティティ			○	○	○	○			

注) 表2 に示した教科書にアルファベットをランダムに付して掲載

3) ニーズをもつ存在

すべての教科書において、ニーズ（ニード）に関する記述があり、ニーズ（ニード）とは何かについて、その内容を記述している教科書は5冊であった。次に、ニーズ（ニード）に関する理論をみると、すべての教科書において【アブラハム・H・マズロー】のニード階層についての記述がみられた。また、看護理論では4冊の教科書で【ヴァージニア・A・ヘンダーソン】について記述されていた。

4) 生活を営む存在

すべての教科書において表現は異なるものの、人間は生活を営む存在であることが記述されていた。そして、5冊の教科書で【生活】についての記述がみられ、3冊の教科書においては【生活者】について記述されていた。

5) 適応する存在

適応する存在としての人間に関する記述がある教科書は7冊あり、それを理解する主な視点として、6冊の教科書で【ホメオスタシス】、7冊の教科書で【対処機制（コーピング）】、5冊の教科書で【防御機制】が取り上げられていた。なお、対処機制（コーピング）については、その方法として【問題中心（焦点）型コーピング】と【情動中心（焦点）型コーピング】があること等の具体的内容が5冊に記述されていた。

6) 社会・文化的存在

すべての教科書において、社会・文化的存在について記述しているものは見当たらず、他の小項目の内容を記述する際に、社会・文化的存在に類似した文言の一部が用いられているにとどまっていた。

7) ライフサイクルと発達課題

ライフサイクルと発達課題については7冊の教科書でその記述がみられた。そして、発達課題については、主として【ロバート・J・ハヴィガースト】の発達理論が6冊の教科書で、【エリク・H・エリクソン】の発達理論については、7冊の教科書で取り上げられていた。なお、エリク・H・エリクソンが概念確立した【アイデンティティ】について注目して記述している教科書が4冊みられた。

考 察

本研究では、看護師国家試験出題基準に示されている基礎看護学の目標Ⅰ「看護の基本となる概念について基本的な理解を問う。」における大項目「看護

の基本となる概念」のなかの中項目「看護の対象」の小項目、すなわち、「全体<whole>としての人間」「成長・発達する存在」「ニーズをもつ存在」「生活を営む存在」「適応する存在」「社会・文化的存在」「ライフサイクルと発達課題」の7項目について、基礎看護学の学生用教科書を用いて整理し、その実態を明らかにするとともに、学生がその小項目を学習するうえでポイントとなる重要用語の抽出を行った。

まず、小項目の記述内容について整理した結果についてであるが、今回、分析対象とした教科書では、小項目の内容をすべて記述している教科書はみられなかった。本田ら⁶⁾はラテックスアレルギーについて教科書を用いて分析した結果、ラテックスアレルギーに関する記載があった教科書と記載が無かった教科書があったことを明らかにしている。そして、記載が無かった教科書を選択した場合、ラテックスアレルギーの知識が得にくいことが示唆され、就職前の看護基礎教育においてラテックスアレルギーの理解をすすめる教育が必要であると述べている。本研究においても、小項目すべての内容を記述した教科書はなく、特に、社会・文化的存在についてはいずれの教科書にもその記述がみられず、また、小項目の記載内容も一様でなかったことが明らかになった。先にも述べたように、看護のメタパラダイムの4つの概念のうち、「人間」は重要な概念であること、及び、保健師助産師看護師国家試験の内容は、保健師、助産師及び看護師が保健医療の現場に第一歩を踏み出す際に、少なくとも具有すべき基本的な知識及び技能であり、保健師助産師看護師国家試験出題基準は、これらを具体的な項目によって示したものである⁵⁾ことから、看護基礎教育では、人間（対象）に関する小項目の内容を網羅できるような教育内容とすることが求められているといえる。今回の検討結果で、ひとつの教科書で全てを網羅することが困難であることが示唆されたことから、ひとつの教科書を教材として選択した場合においては、その教科書を基盤としつつ、他の様々な教材を用いて教育内容を構築することが必要と考える。

次に、重要用語についてであるが、本研究では、小項目ごとに複数の教科書に共通して記述されている用語を重要用語として抽出を行った。そして、本研究で「全体<whole>としての人間」は2用語、「成長・発達する存在」は4用語、「ニーズをもつ存在」

は2用語、「生活を営む存在」2用語、「適応する存在」は4用語、「ライフサイクルと発達課題」は3用語の計17用語の重要用語を明らかにすることができた。これらの用語は分析対象とした教科書の各著者が、学生が小項目を理解するうえで必要不可欠と判断した用語と捉えることができ、それが複数の教科書に記述されている点から、この重要用語は人間(対象)を教授していくうえで欠くことができない教授内容と考えられる。そのため、本研究では、学生がその小項目について学習を深めていくうえでポイントとなる用語と位置づけた。本研究では、17の重要用語を明らかにすることができたことから、基礎看護学の講義等で教授していくことはもちろん、これらを事前・事後課題の学習課題とすることにより、学習内容を有機的に連関させることで、人間(対象)の概念への理解深化につながられるのではないかと考える。今後は上述の教育内容の構築に、この重要用語をいかに組み込んでいくかを検討していきたいと考える。

最後に本研究の課題について述べる。本研究結果は、研究者らの基準に基づき選定した教科書を整理したにとどまっており、その範囲内で得られた内容を明らかにしたにすぎず、また、選定した教科書の中でも、今回は人間(対象)について記述されている章や項等のみを整理したため、他の箇所において、これら小項目の内容が記述されている可能性は否定できない。

結 論

最新の看護師国家試験出題基準に示されている「看護の対象」の小項目について、看護基礎教育での教育内容の一般的傾向を捉えるために、基礎看護学の標準的な学生用教科書の記述内容の検討を行い、基礎看護学の学生用教科書の記述内容の実態と学生がその小項目を学習するうえでのポイントとなる重要用語の抽出を行った。その結果、小項目すべての内容を記述した教科書はなく、小項目の記載内容も

一様でなかったことから、ひとつの教科書を選択した場合にはそれを基盤にしつつ、他の様々な教材を用いて教育内容を構築することが必要と考えられた。また、抽出された重要用語は講義等の事前・事後課題の学習課題とすることで、人間(対象)の概念の理解深化につながると考えられることから、重要用語も教育内容に組み込んでいくことが必要と考えられた。

利益相反：本研究における利益相反は存在しない。

文 献

- 1) 城ヶ端初子. ケースカンファレンスで実感！臨床で使いたくなる看護理論. 第1版 大阪：メディカ出版. 2008.
- 2) 桑野紀子. 看護理論の概要. 看護科学研究 2014 ; 12(2) : 68-75.
- 3) 中山洋子. 看護学を構成する主要概念. 野嶋佐由美. 看護学の概念と理論的基盤. 第1版 東京：日本看護協会出版会. 2012 : 19-30.
- 4) 小山真理子. 看護の対象としての人間. 小山真理子. 看護の対象. 第1版 東京：日本看護協会出版会. 2011. 2-20.
- 5) 厚生労働省. 保健師助産師看護師国家試験出題基準 平成30年版 (2017年4月25日). <https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-10803000-Iseikyoku-Ijika/0000158962.pdf> (2019年5月23日アクセス)
- 6) 本田輝子, 梶原江美, 飯野英親他. 看護基礎教育で使用する教科書および看護師・医師・歯科医師の国家試験過去問題におけるラテックスアレルギーに関する出現頻度と内容の分析. 第43回日本看護学会論文集 看護教育 2013 : 82-85.

受付 2019. 8. 30

採用 2019. 12. 12

